

沖縄県サンゴ礁保全推進協議会・第15回理事会議事録（案）

- 日時：平成26年6月2日（日）14:00～17:00
- 場所：県庁4階第1会議室
- 出席（役員）：中野義勝、西平守孝、エコガイドカフェ（猪澤也寸志）、自然保護課（謝名堂聡）、環境省那覇自然環境事務所（中野圭一）、後藤亜樹、桜井国俊、沖縄リーフチェック研究会（安部真理子）、NPO法人グローイングコーラル（上原直）、藤田喜久、宮古島マリリゾート協同組合（新村一広）、八重山サンゴ礁保全協議会（吉田稔）、WWF ジャパン（権田雅之）
- 委任状：沖縄県ダイビング安全対策協議会（案納昭則）、梶原健次、木村匡、コーラルクエスト（岡地賢）
- 事務局長：神谷大二郎
- 事務局：沖縄県環境生活部自然保護課（多良間一弘）
- 運営委員：沖縄県環境科学センター（山川英治）
- 議事録署名人：沖縄リーフチェック研究会（安部真理子）、八重山サンゴ礁保全協議会（吉田稔）

役員23名中、上記13名の出席者（会長、副会長、理事11名、事務局長）および4名の委任状により、成立要件である理事の過半数を満たしたので成立、内容を協議し決定した。

議事録署名人として沖縄リーフチェック研究会（安部真理子）、八重山サンゴ礁保全協議会（吉田稔）理事が選出された。

【アンダーライン部分が理事会での決定事項】

【「・」は説明事項および提言事項】

【「→」は説明事項や提言事項に対する意見】

（1）事務局からの報告（資料1）

ア. 事務局からの報告

① サウジアラムコ社からの寄付について

- ・ サウジアラムコ社からの寄付に関して事務局から報告があった。主な報告事項としては以下のとおり。
- ・ 平成25年10月に当協議会へ寄付があり、平成26年3月2日に寄付金の運用等に関する覚書を交わした。
- ・ サウジアラムコ沖縄サンゴ礁保全活動支援基金の増額として15万米ドル寄付があった。

→ 「覚書」の第3項目の「基金の期限は2016年3月31日まで延長し…」となっているが、2017年3月31日の間違いではないか。

正式には2017年3月31日であり、「覚書」のミスであるため、サウジアラムコ社へ訂正について調整をはかることとした。

②おきなわサンゴ礁ウィークについて

- ・おきなわサンゴ礁ウィーク 2014 について事務局から報告があった。主な報告事項としては以下のとおり。
 - 「おきなわサンゴ礁ウィーク 2014」を平成 26 年 3 月 1 日（土）～9 日（日）に実施した。
 - シンポジウムや磯の観察会など 27 団体の共催によるイベントが県内各地で開催された。
 - 県自然保護課と連携して実施し、ポスター1,000 部、チラシ 30,000 部を制作し周知を図った。
- ・サンゴ礁ウィークの準備については早めに準備した方がよいので、早めに実行委員会を組むとよい。
- ・サンゴ礁ウィーク期間中に実施した私のサンゴ礁イメージ展はどうなったのか。開催できなかったのであれば、その旨を応募者へしっかりと報告しなければならない。
 - イメージ展の募集を図ったが、応募数が少なく、展示会を開催することができなかった。対応が遅れているが、応募者へ対しては丁寧に対応する。
- ・応募を早くすれば、もっと応募者数が多くなると思うので、夏休み前に学校などへ周知を図るよう計画した方がよい。
- ・サンゴ礁ウィークで共催した団体について、当協議会の会員加入について案内すること。

③平成 26 年度事務委託について

- ・協議会事務局作業（協議会事務局作業補助、助成事業に関する事務、会計事務、HP の維持管理など）の一部を、沖縄県環境科学センターへ委託することを提案された。
平成 26 年度事務委託は沖縄県環境科学センターに委託することで承認された。
- ・ホームページの運営では協議会英語版ホームページの作成を随時進めてほしい。

④寄付対応について

- ・募金の呼びかけなどを行う場合は、協議会の紹介やサンゴ礁の現状などの資料を求められるため、写真（保全が必要な海、理想的な海、保全に関する写真）、協議会紹介リーフレットとポスターの増刷、協議会のロゴマークを収集・作成したい。
 - リーフレット、ポスターは予算の範囲内で増刷することが承認された。
 - ・リーフレット、ポスターを新たに刷るときは内容確認し修正するとよい。
 - ・ロゴマークについてはイメージ展と同様に公募したほうがよい。
 - ロゴマークは公募することが承認された。
- (写真について)
- ・協議会で写真をあつめて提供できる仕組みをつくっておく必要がある。
 - ・提供しやすいように、写真のストックとあわせて、カテゴリー別に整理しておく必要がある。または、どんな写真であればどの人が持っているということをリスト化することもよいと思う。
 - ・事務局としては、使ってもよい写真があれば提供していただき、クレジットを入れるなど貸し出し条件を作っすぐに提供できる状態を作りたい。
 - ・著作権などの問題があるかもしれないので、調べながら仕組み作りをしたほうがよい。
 - ・著作権の問題が発生しないようフリーで使っていいものだけ集めたい。
 - 写真を集めながら、写真貸し出しに関する仕組みを構築していく。

イ. 各委員会からの報告

(企画委員会より)

年間計画が見える形が作成した方が計画しやすい。スケジュール表を作成することで、いつ頃何があるか、だれがどの役割を行うかがわかりやすくなるのでその作成を進めたい。

(広報委員会より)

サンゴ礁ウィークの広報について期間が短くて広報が難しかった。広報をする際には、ある程度内容が決まっていないと広報できないため、サンゴ礁ウィークの企画は早めに固めてほしい。また、その広報活動に使える予算を補填する仕組みがあればよい。

(2) 第7回総会について (資料2)

ア. 総会の日程、スケジュール

平成26年7月6日(日) 13:30~15:00 沖縄大学2号館2-406号室で開催することが承認された。

イ. 総会の議案

第1号議案 平成25年度活動報告について

・平成25年度活動報告が承認された。

第2号議案 平成25年度収支決算報告について

・平成25年度助成事業の宮古島マリリゾート協同組合への概算精算払金額が間違っている。

→170,000を160,000に訂正する。そのため、収支決算報告書のアラムコ基金の支出額を1,540,000から1,520,000に訂正する。

・平成25年度収支決算報告が承認された。

第3号議案 平成26年度事業計画(案)について、以下の提案がなされた。

- ・活動を通して協議会会員にメリットがあることが見えるようにしたい。将来的に協議会が持続的に運営できるようにするためにも、会員増につながる活動を盛り込むようにしてほしい。
- ・交流会の実施について追加してほしい。なお、交流会のあり方については随時検討していく。総会の延長線上で交流会を実施するか、また別の案ですすめるか検討する。
- ・交流会にて野外活動のようなものがあるとよいと思う。総会とタイアップしてできないか。
- ・シンポジウムよりも人集めできるイベントがあった方がよい。移植イベントなど始めてもよいと思う。
- ・年間計画もそうだが、協議会のアジェンダみたいなものを考えてもよいのではないか。例えば10年後に協議会がどのようになりたいか考えて、どういうふうな活動が必要かを検討する方がよいと思う。また、寄付金をどう活用しているのかを、丁寧に公表することで寄付はもっと集まると思う。

- ・将来にわたって協議会の果たすべき目標（将来像）を意識的に話し合う委員会をつくることを提案。趣旨に則って達成すべき、短期的、中長期的な目標を掲げられたらよいと思う。
- ・協議会は個々の協議会のメンバーがいる。それぞれのグループがそれぞれに活動しているので、その邪魔になってはいけない。協議会は、協議会だからこそこできるという活動は何なのかということを検討することが大切。他のグループができないこと、協議会しかできないことが何かを洗い出し検討することが必要。例えば、個々のグループが計画しているイベントなどがある場合は、協議会の事務局に連絡があれば、事務局がそれを発信できるような仕組みなど。
- ・協議会の将来的な目標や、やるべき活動を検討するため、将来委員会を設置して議論する場を設けてもよいと思う。

第3号議案平成26年度事業計画（案）について、「交流会」実施を加えること、また事業計画案に事業計画表を追加することが承認された。

第4号議案 平成26年度収支予算（案）について報告し、以下の提案がなされた。

- ・サウジアラムコ助成事業の覚書に「サンゴ礁保全に資する活動を実施する」とあるので、アラムコ助成事業の予算を活用して、協議会が主体となったイベントを実施してもよいのではないか。
- ・予算が伴うものがないのでは、企画を出しても実施ができないという流れを断ち切るべき。思い切って企画を提案して実施できるような予算を計上しておいてもよいのではないか。
- ・具体的な使途がない予備費を計上するのは良くない。
- ・将来委員会は保全推進するための協議の場とし、分野毎に関係者毎に委員会としてわかれてその問題について議論していくのはよいと思う。
- ・保全現場に近い活動への予算の使い方をした方が効果的と考える。
- ・協議会で長期展望をもって、短期で取り組む課題を計画して、具体的な計画をたてて予算を確保してやった方がうまくいく。そのため、話し合いをしっかりとって次年度に向けた検討をすべき。
- ・各委員会が活動するためある程度の経費が必要。

→必要な経費を旅費として予算案に組み込むことで、平成26年度収支予算（案）が承認された。

第5号議案 役員選挙結果

役員選挙の結果は総会の日に報告する。

第6号議案 規約の改正

第6-1号議案 規約の改正（第13条）

役員選挙により選出された役員の就任が現在の規約では約半年遅延が生じることから、時期役員の任期を短縮するなど役員の交代時期について規約の改正を提案された。

以下の提案内容のとおり承認された。

改正前	改正後
(役員の任期) 第13条 役員の任期は2年を基本とする。但し、平成20年6月28日に選出される役員の任期については、次回の総会までとする。また、再任を妨げない。 2. 補欠又は増員により就任した役員の任期は、他の役員の残存期間とする。 3. 役員は、辞任又は任期満了後であっても、後任者が就任するまでは職務を遂行する。	(役員の任期) 第13条 役員の任期は <u>選出から2年後の総会までとする。但し、平成26年12月13日に選出される役員の任期については、平成28年度に開催される総会までとする。</u> また、再任を妨げない。 2. 補欠又は増員により就任した役員の任期は、他の役員の残存期間とする。 3. 役員は、辞任又は任期満了後であっても、後任者が就任するまでは職務を遂行する。

第6-2号議案 規約の改正（第24条）

沖縄県環境生活部自然保護課の名称変更による規約の改正が提案された。

以下の提案内容のとおり承認された。

改正前	改正後
(運営事務局) 第24条 協議会の活動を円滑に進めるための事務作業を行う運営事務局を沖縄県環境生活部自然保護課に設置する。	(運営事務局) 第24条 協議会の活動を円滑に進めるための事務作業を行う運営事務局を <u>沖縄県環境部自然保護・緑化推進課</u> に設置する。

(3) 平成 26 年度サウジアラムコ沖縄サンゴ礁保全活動支援助成事業

ア. 各種要領と要綱

- ・平成 26 年度のサウジアラムコ助成事業について、実施要領が承認された。
- ・審査要領については、審査会から提案を反映させたものを、次回理事会で提案する。
- ・サンゴ移植活動の審査基準について、遺伝的攪乱について規制を弱くしてもよいのではないか。移植する海域は西海岸、東海岸としてもよいと考える。
→移植する海域にについて「できるだけ近い海域」という文言はとてもよいと思う。逆に、東西と分けてしまうと南部から北部に持って行ってもいいのかという問題が発生する。
- ・執行額が少ないのはよくないので、審査の際にはそのあたりを考慮して、審査に望んでほしい。

イ. 平成 26 年度助成事業スケジュール

事務局より提案されたスケジュールが承認された。

ウ. 審査会構成員について

審査会構成員について、資料の審査員候補者へ意思確認をし、次回理事会で確認する。

(4) その他

ア. 交流会について

交流会については、随時、企画委員会と調整をはかりながら進めていくこととなった。

・その他（議案終了後の意見交換）

- 那覇空港滑走路の工事にともないサンゴが埋められるため、関係機関と調整しながら、進めようとしているが行政手続きが大変。このような状態だと小さい NPO がどんなに動いてもサンゴを保全する活動に結びつかない。
- 誰もが移植をできる状況は保全としては好ましくない。また、移植の効果があるのかということも議論したい。
- 空港工事について、埋めていいのかという議論を計画段階から話しをすべき。サンゴを保全しようという協議会がそれを置いておくのはどうかと思う。
- サンゴ礁の望ましい状態を維持するため、サンゴ礁を保全再生する協議会。会員はそれぞれが保全の活動を実施しており、それをお互い連絡を取り合いながらつなげていく。弱いつながりでつながっている組織であって、協議会の中で何かの案件に対してどうこう言うのはなじまないし、いろいろな意見をもった会員がいるため難しい。だれかに相談したいという場合に協議会を通してだれかに相談できる環境を協議会が担えると思う。